

# 四大学連合による ポストコロナ社会コンソーシアム の取組等について

社会科学の発展を考える円卓会議

第7回「医療・健康と社会科学」

2023年1月26日



東京医科歯科大学

副理事（連携推進担当）

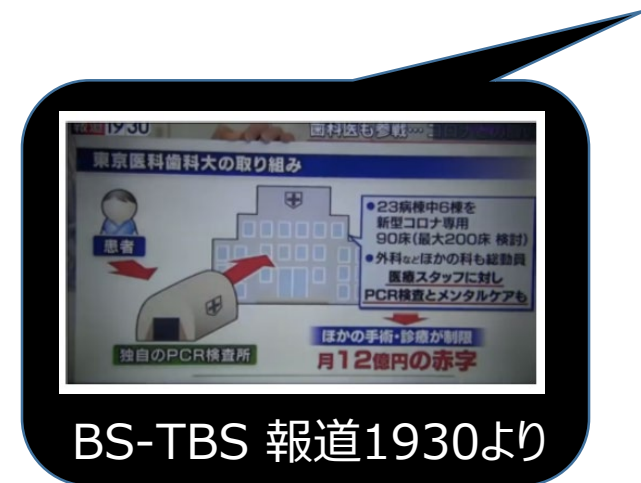
教授（国際健康推進医学分野）

藤原武男

# 四大学連合ポストコロナ社会コンソーシアムの開設

## 開設の背景①

- これまで、四大学連合による連携は教育の連携に止まる
- **研究の連携はほとんどなかった**



BS-TBS 報道1930より

## 開設の背景②

- 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）のパンデミックは**東京で顕著**
- TMDUは学長の英断により国立大学として**全国でもトップクラスのCOVID-19患者の受け入れ体制**を構築
- 東京都も「スタートアップ・エコシステム 東京コンソーシアム」事業を立ち上げており、**首都圏における大学・企業・自治体の連携を推進**している
- COVID-19対策はグローバルな視点、**多分野の視点が必要**

## 開設の目的

- **TMDUのCOVID-19患者データを利活用**する研究を提案することで四大学連合における連携の求心力となるのではないかと？
- **東工大、一橋大学、外大の特徴的視点**がコロナ対策に有益ではないかと？
- **東京都との連携**（都立病院含む）を進めやすくなるのではないかと？
- **グローバルな取り組み**を提案しやすくなるのではないかと？

# 四大学連合ポストコロナ社会コンソーシアムの開設

コンセプト：四大学連合でコロナ対策研究、ポストコロナ社会に臨む

## ● ボトムアップ

- ポストコロナ時代を念頭においたバーチャルサロン
- 教職員・学生が自由な発想を投稿
- 定期的な意見交換サロンの開催

## ● トップダウン

- 四大学連合研究戦略会議の設置
- 理事クラスで共同研究課題の選定・予算化
- 外部資金情報の提供
- 企業とのマッチング
- 国際共同研究の提案

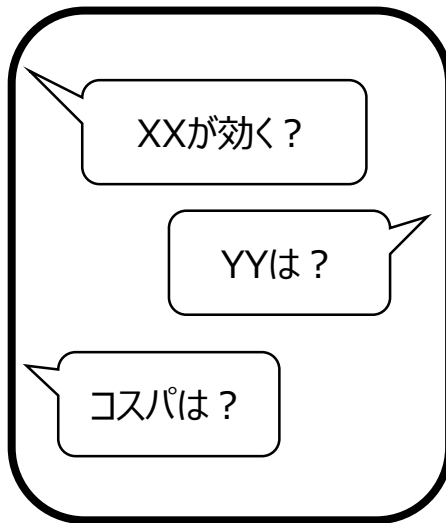
# 四大学連合コロナ対策研究コンソーシアムの開（2020.12）

## 四大学連合研究戦略会議 （理事クラス合同会議）

運営事務局（四大学教員）



（バーチャル）  
**四大学連合サロン（仮称）**  
（Slackを想定）



- 四大学の教職員、学生がCOVID-19について今後必要と考える研究課題・コンセプト・仮説・解決方法等を**自由に投稿**
- 月に1回程度のZoomでの**意見交換サロンの開催**
- オンラインシンポジウムを定期的に開催

- 推進すべき**共同研究の選定・予算化**
- **外部資金情報**の提供
- 東京都の**スタートアップ・エコシステム**事業との連携
- **企業**とのマッチング
- **国際共同研究**の模索

- 共同研究成果の報告
- 共同研究の中で出てくる解決すべき課題の情報提供
- 共同研究から派生する研究課題の提案

## 大学間共同研究の実施（例）

東工大 ↔ 医科歯科：  
COVID-19対策機器の開発  
（スマホによる酸素飽和度測定、  
バーチャル家庭訪問による家庭内環  
境測定等）

一橋大 ↔ 医科歯科：  
COVID-19対応病院のコスト、行  
政法的課題の整理等

外語大 ↔ 医科歯科：  
各国の医療従事者のCOVID-19  
対応と顔・身体観の文化との関連等

\*学生も巻き込んだ共同研究に展開

# ポストコロナ社会コンソーシアムの 主な実施業績

- 1 共同でのグラント申請（ムーンショット等）
- 2 イベントの開催
- 3 MMAでのコースの実施
- 4 共同研究・論文出版

# 1. 共同でのグラント申請

「ムーンショット型研究開発事業 新たな目標検討のためのビジョン」

- ・四大学の若手中心にそれぞれ2名、合計8名+他大学、若手・学生
- ・「面白い」ことを大事にするという共通の価値観が明確に

「ムーンショット目標9 2050年までに、こころの安らぎや活力を増大することで、精神的に豊かで躍動的な社会を実現」

- ・医科歯科、東工大、外大で子ども・若者にフォーカス、メタバースの活用を提案、心理学・科学哲学・教育学と連携
- ・面接まで進むも採択ならず

「JST未来社会創造事業 個人に最適化された社会の実現」

- ・「自分らしさ」に着目し、心理学・教育学・データサイエンスと連携
- ・面接まで進むも採択ならず

## 2. イベントの開催：お互いを知る

### キックオフイベント

(東京医科歯科大学 主催)

- 開催日時  
2021年2月12日(金)  
17:00～20:00
- 開催形式  
オンライン開催
- REMOを活用し  
相互交流
- 162名が参加

挨拶	「四大学連合ポストコロナ社会コンソーシアムについて」 東京医科歯科大学 渡邊守理事
第一部	講演/文部科学省高等教育局国立大学法人支援課 堀野晶三課長
	特別講演/グローバルファンド(世界エイズ・結核・マラリア対策基金) 國井修戦略・投資・効果局長
	各大学の研究者と國井先生とのQ & A
第二部	テーマ別分科会(テーマに分かれたセッションを2回行います) 第二部はバーチャル会議システム「REMO」を使っての少人数ディスカッションです。 テーマ例:ミクロレベル「感染を調べる」、メソレベル「人の行動を変える」、 マクロレベル「コロナにまつわる法的課題」 など



## 2. イベントの開催： 課題解決型の交流

- オンラインフィールドワークの開催  
(東京外語大 主催)
- 2021年夏に実施、学生中心
- 42名の学生が参加
- テーマに沿って現場の話を聞く
  - 高齢者
  - 飲食店
  - 大学生の孤立
- 第1回を2021年6月14日、第2回を7月19日に実施し、その間も四大学の学生で議論させ、政策提言にまとめた

### 四大学連合の学生による3つの提言

HOME » ポストコロナ社会コンソーシアム » 四大学連合の学生による3つの提言

四大学連合ポストコロナ社会コンソーシアムでは、四大学連合の学生を対象に「コロナ禍の中で起きている社会問題に、我々の研究はどのように貢献することができるのか」をテーマにオンラインフィールドワークを開催し、コロナ禍によって社会に生じている分断の3領域について、みなが協働して乗り越えより良い未来を作るための行動について考えました。

今回のイベントは、コロナ禍における分断を、特定の社会で起きている遠い世界の問題ではないことを再認識し、共に生きる者として、社会問題の当事者として、難しい問題にどう対峙できるのかを、普段とはひとまわり広いサークルの中で対話し、考察する機会を作ることを趣旨に開催しました。

全2回のオンラインフィールドワークでは、四大学連合の学生をメインターゲットとして、「高齢者の孤立」、「飲食店の対応」、「大学の現場への影響」のトピックごとに現場関係者の講演を行い、社会問題を生み出す構造の複雑さについての気付きをもたらし、二次的な苦しみを生んでいる現在のコロナ対策をより「社会に優しく実装」することはどうしたらできるかという視点でグループワークを行い、各トピックに関する考察をまとめ、発表を行いました。

このイベントの成果は、未来を作る若者が、自分たちが問題解決者の一員として、研究を通じ、分野を超えて協働

### 総括

**中矢** ワークショップやコロナ禍を通じて気づいたことを最後に一言ずつお願いいたします。

**本多** 今回のワークショップを通して、分野が違う人たちと話していると新たな発見ができることとでも、議論しあえるポテンシャルを自分たちは備えていることなどに気がつきました。自すべきなのかが分かった気がしました。



## 2. イベントの開催： 未来志向の交流

- **バックキャスト**型の異分野  
融合研究会

「50年後の未来を考える」

- 東工大が主催
- 2021年12月22日
- Zoomのブースに分かれ、  
21名の各分野における若手研究  
者の描く未来像を発表、相互に  
質問、参加者は視聴のみ
- 70名がオンラインで聴講

東京医科歯科大学

専門
医学教育学、公衆衛生学、 疫学、小児科学
歯周病学、口腔科学
解剖学
精神医学、神経科学、 分子細胞生物学
整形外科 医師の暗黙知の 可視化、生活空間における 疾患スクリーニング
地域研究（バングラデシュ、 南アジア）、GIS、空間疫学
文化人類学・東南アジア地域 研究（フィリピン、マレーシア、 インドネシア等）
地域研究（中東アラブ圏） アジア史・アフリカ史
文化人類学・民俗学 （東南アジア・マレーシア）
現代イスラーム研究
社会人類学・東アフリカ 民族誌

東京外国語大学

東京工業大学

プラズマ工学
感情と技術・経営、経営工学
エネルギー変換
生命情報科学、腸内細菌
建築学、公衆衛生学
社会学
社会動態研究分野 （社会調査・社会学）
デジタル技術と法制御
技術マネジメント
アジア、アフリカの保健・医療 制度、保健・医療人材、保健・ 医療サービス、技術に関する 価値観と嗜好の分析

一橋大学

## 2. イベントの開催： 他分野の基本を知る

- ・ 今話題のトピックで語る（**ポスト・ポストコロナ**）
- ・ 一橋大学主催
- ・ 「大人のためのゼミ」としてそのテーマについて「今更聞けない」ことも聞く場に
  - ・ ゼミ形式で、質問に答える形で実施
  - ・ 全4回の参加者：延べ340名



計4回実施

1. 2022年6月27日「最近の国際情勢」（ウクライナ侵攻含む）
2. 2022年7月29日「AI、フェイクニュース、情報があふれる社会」
3. 2022年10月4日「フェミニズム、セクシャルリティ」
4. 2022年11月28日「人間のウェルビーイング」

### 3. MMAでのコースの実施（人材育成）

- イベントだけで終わらせることなく、四大学連合で実施している修士コース（Master of Medical Administration, MMA）コースの1つの科目としてこの連携の内容をコンテンツにした科目「ポストコロナ社会の感染症対策」（全8回）を実施（2022年開講）
- 57名受講（医科歯科博士・修士23名、医科歯科学部生27名、一橋学部生7名）

日	内容	講師
4/25	グローバルヘルスにおけるポストコロナ社会の感染症対策	國井 修
5/13	感染症対策における法律上の課題	磯部 哲
5/13	臨床の現場における感染症対策の現状と課題	倉持 仁 平畑 光一
6/28	グループワーク「社会に優しい感染症対策の実装」（1）課題提示	中山 俊秀 藤原 武男 布川 あゆみ
7/19	疫病と社会	古川 高子 那波 伸敏
8/19	データでみる感染症対策の効果と課題	高久 玲音 横山 泉
9/16	グループワーク「社会に優しい感染症対策の実装」（2）状況把握、問題の明確化、発表	中山 俊秀 藤原 武男 布川 あゆみ

# 4. 共同研究・論文出版

- 公衆衛生学関係者で実施したコロナ禍における3万人規模のインターネットパネル調査を一橋大学・高久准教授、横山准教授と医科歯科大学・藤原らで解析
- 数回のズームミーティングを重ね、論文化

OPEN

## SARS-CoV-2 suppression and early closure of bars and restaurants: a longitudinal natural experiment

Check for updates

Reo Takaku<sup>1</sup>, Izumi Yokoyama<sup>1</sup>, Takahiro Tabuchi<sup>2</sup>, Masaki Oguni<sup>1</sup> & Takeo Fujiwara<sup>3</sup>

Despite severe economic damage, full-service restaurants and bars have been closed in hopes of suppressing the spread of SARS-CoV-2 worldwide. This paper explores whether the early closure of restaurants and bars in February 2021 reduced symptoms of SARS-CoV-2 in Japan. Using a large-scale nationally representative longitudinal survey, we found that the early closure of restaurants and bars decreased the utilization rate among young persons (OR 0.688; CI95 0.515–0.918) and those who visited these places before the pandemic (OR 0.754; CI95 0.594–0.957). However, symptoms of SARS-CoV-2 did not decrease in these active and high-risk subpopulations. Among the more inactive and low-risk subpopulations, such as elderly persons, no discernible impacts are observed in both the utilization of restaurants and bars and the symptoms of SARS-CoV-2. These results suggest that the early closure of restaurants and bars without any other concurrent measures does not contribute to the suppression of SARS-CoV-2.

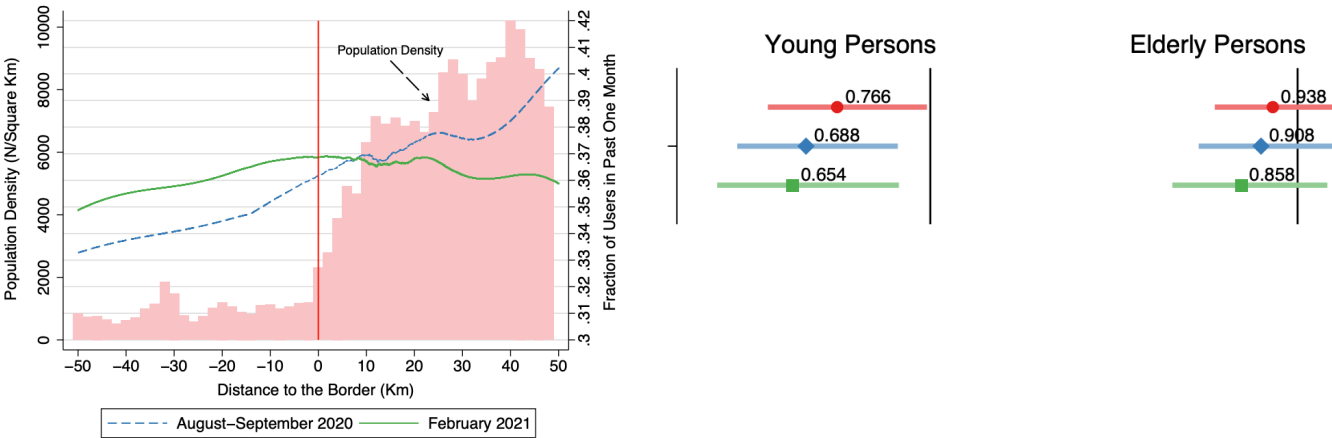
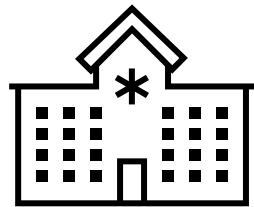
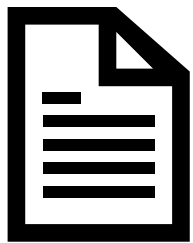


Figure 2. Population Density and Utilization of Japanese Pubs around the Border.

# ポストコロナコンソーシアムの経 験から学んだこと

• **社会科学にとって必要**なもので**自然科学が持っている**もの

- データ
- フィールド



• **自然科学にとって必要**なもので**社会科学が持っている**もの

- 理論に基づく新たな視点
- 歴史に学ぶ視点

